



若者が語る 日本軍「慰安婦」問題！

2024年 5月25日(土) 14:00~17:30 (開場 13:40)

北海道高等学校教職員センター 4階大会議室(中央区大通西12)

参加費 / 1000円 / 予約 800円 / ユース(25歳まで) 無料

↓締切 5月25日 正午まで

予約先 / <https://forms.gle/o1JLPuYAuiajCZCx7> か、

Tel 090-6446-3974 (チョキム) ※「予約」と伝えてください。



その1

タナカアサコ

お話 田中麻子さん



キボタネ



1993年生まれ。2018年にキボタネ主催の「韓国4泊5日『慰安婦』問題について学ぶ若者ツアー」に参加。その後、映像制作の仕事をしながら、希望のたね基金で「慰安婦」問題を記憶・継承する活動を続けています。

「希望のたね基金(通称キボタネ)」とは、日本の若者に日本軍「慰安婦」問題を記憶・継承することを目的とし、2017年に設立。運営主体は、キボタネが開催したさまざまなプロジェクトで出会った若者たちです。

若者たちが「慰安婦」問題の記憶・継承を運動とする理由は、「慰安婦」問題が過去の問題ではなく、現在の性暴力・性搾取と繋がっていると考えているからです。今回、キボタネがこれまでのプロジェクトの中でどのようなことを学んできたのか、そして今の性暴力・性搾取の問題と「慰安婦」問題の関わりについてお話しします。

その2 4人の学生さんからの訪韓報告会

今年2月、北海道教育大学社会科の学生有志が日本軍「慰安婦」問題をはじめとする植民地支配の歴史を学ぶため、6日間のソウルへの旅に出かけました。

西大门刑務所や植民地歴史博物館をめぐり、戦争と女性の人権博物館では、広島大学の学生たちとともに"last ten feet"の展示案(最後の展示案)を新たに構成し、さらにソウル教育大学では、日本の教育現場で日本軍「慰安婦」がいかに教えられてきたのかに焦点をあてた発表を行いました。

全員がはじめてのソウル訪問でしたが、学生たちが何を感じ、何を得て何を考えたのかを率直に語る場としたいと思います。



主 催:日本軍「慰安婦」問題の解決をめざす北海道の会
問合せ:Tel 090-6446-3974 (チョキム)

